Culib News（クリブニュース）
No.52　2007年4月1日　中京大学図書館発行

ことばの散歩－15－

エソポのハブラス

図書館長　安村　仁志

“エソポのハブラス”と聞いて何を想い浮かべられますでしょうか。歯ブラシの新製品じゃあるまいし、何でしょう。実は、これは「イソップの寓話」を指しています。

1593（文禄２）年に九州の天草で出版された口語訳日本語ローマ字本の「イソップ寓話（ESOPONO FABVLAS と綴られている）」です。本能寺の変が起こる1582（天正10）年に宣教師アレッサンドロ・ヴァリニャーノに伴われて天正遣欧少年使節がヨーロッパに向かい、８年後に持ち帰ったグーテンベルクの活字印刷機で印刷されたものです。イエズス会による出版事業《キリシタン版》の一つですが、初めて日本語に訳された西欧文学としても注目されます。豊臣秀吉はキリスト教の布教を禁止しましたので日本には残っておらず、唯一大英博物館に残っていたところを後に『広辞苑』の編纂者としても知られる新村出が留学中にロンドンで明治41年に筆写して持ち帰り、発表しました。

では、なぜ宣教師たちはイソップ寓話を口語体日本語ローマ字本にしたのでしょうか。まずは、イソップ寓話を宣教に役立てようと考えたからでしょう。彼らは「宗教改革」後にカトリック内部で改革を求め、世界宣教に乗り出したイエズス会士でしたが、興味深いことに、宗教改革を進めたルターもこのイソップの寓話に関心を持ち、宣教と結び付けて考えていたようです。実際、新約聖書にはイエスが譬え話を用いて語る場面が多くありますが、有名な「種まきの譬え」（マルコ４：13～20）などは非常に寓意（アレゴリー）的です。次に、新しい宣教師たちの日本語の稽古用にしようとしたことが考えられます。そんなわけで、ローマ字でしかも日常会話的な文で書かれたのです。

どんな風に記されていたのか、一つ例を挙げてご紹介しましょう。読んでみてください。

Aru inu xiximurauo fucunde cauauo vataruni, sono cauano mannacade fucunda xiximurano caguega mizzuno soconi vtcuttauo mireba, vonorega fucunda yorimo, ychibai vo>qinareba, caguetoua xiraide, fucundauo sutete mizzuno socoye caxirauo irete mireba, fontaiga naini yotte, sunauachi qiyevxete dochiuomo torifazzuite xittcuiuo xita.

Xitagocoro —— Tonyocuni ficare, fugio<na cotoni tanomiuo caqete vaga teni motta monouo torifazzusunatoyu　coto gia.

お読みになれましたでしょうか。分かりにくいローマ字綴りがあります。xi はシ（x は s の音）、va はワ（v は u の音）、qi はキ（q は k の音）、uo はヲ（u は v の音）をヒントにもう一度読んでみてくださると、だいぶ分かってくると思います。日本字に翻刻されたものを添えましょう。

「ある イヌ 肉（ししむら）を ふくんで 川を 渡るに、その 川の 真中で ふくんだ 肉（ししむら）の 影が 水の 底に 映ったを 見れば、おのれが ふくんだ よりも、一倍 大きなれば、影とは 知らいで、ふくんだを 捨てて 水の 底へ 頭（かしら）を 入れて みれば、本体が 無いに よって、すなわち 消え失せて どちをも 取り外（はづ）いて 失墜（しっつい）を した。

下心　貪欲（とんよく）に 引かれ、不定な ことに 頼みを 掛けて 我が 手に 持った 物を 取り外すなということ ぢゃ」（http://www.geocities.co.jp/bookend/9563/dog_meat/dog.html）

有名な「肉をくわえた犬」のお話ですが、この『エソポのハブラス』では、しめくくりの教訓の句が「下心」という興味深い言葉で表現されています。もちろん今使われているような意味ではありません。ちなみに、この寓話は、専門家の研究によれば、15世紀の後半にドイツ人医師ハインリッヒ・シュタインヘーヴェルが、それまで流布していた格調高いラテン語韻文版を当時の口語ドイツ語に訳し添えた画期的なもの（世に言う「シュタインヘーヴェル版」）が日本に持ち込まれ和訳されましたが、それを先の目的に沿って独自の表現にしたものではないかとされています。筆者は心からシュタインヘーヴェルさんに敬意を表します。聖書を誰もが読めるようにとの思いをもって分かりやすい現地の言葉（英語）に翻訳した（1382年）イギリスのウィクリフに倣い、ドイツではルターがドイツ語訳した（1522－34年）ことはよく知られているところですが、それよりも前の1476年頃に同じ趣旨のことをしていたのですから。学生たちに、そのままでは難しいと思われることを、先に触れた例えを含め、〈伝わる、届く〉言葉で伝えることの難しさとそれにチャレンジする楽しさを心のうちに感じているものとしての思いです。

さて、「イソップ寓話」がなぜ「エソポのハブラス」となったのでしょうか。まず「イソップ」からです。イソップについては若干の記録とさまざまな言い伝えがあるようですが、紀元前６世紀頃のギリシャの人物で、一般的な概念とは少し違うものの奴隷の身でありました。その彼が「知恵」に活路を見出して残したとされる寓話が語り継がれていたものを後世の人がまとめて本の形にしていって生まれたのが「イソップ寓話」でした。ですから実在の人物で、名をアイソーポス *Αἴσωπος* といいました。物語のラテン語訳に伴い、ラテン語ではエソプス Esopus となりました。ザビエル（これはイタリア語読みで、本来はシャビエルに近いらしい）以来の宣教師たちにとってなじみのあるポルトガル語では Esopo となります（スペイン語 Esopo、Ysopo、イタリア語 Esop）。ここで「エソポ」が登場しました。イソップは世界中で知られていますから、ついでに各国語のイソップを挙げておきましょう。英語 Aesop／Æsop、ドイツ語 Äsop、フランス語 Ésope、ロシア語Эзоп（Ezop）、チェコ語・ポーランド語 Ezop、トルコ語 Ezop、中国語 伊索、韓国 아이소포스などです。日本語での表記は伊曽保（国字本の古活字版・万治版『伊曽保物語』）、伊蘇普（明治の渡部温『通俗伊蘇普物語』）といったところです。「ハブラス」の方はどうなのでしょうか。ラテン語では fabula、ポルトガル語で fábula（スペイン語も fábula、イタリア語 favola）となります。ハブラスはファブラの複数形からとったものでしょう（ポルトガル語で Aesop's fables は Fábulas de Esopo という）。ようやく、「エソポのハブラス」となりました。ちなみにイソップは英語の Aesop の発音に倣ったのでしょう。

ある読書会で『エソポのハブラス』を読んでいるのですが、当時の日本語の面白みに接し、「下心」にまとめられている教訓に耳を傾けてみますと、現在でも通じるからか皆さんの顔がなんとなく緩みます。古典に親しんでみるのも楽しいですからお勧めします―これがこの原稿を書いたわたくしの「下心」になるでしょうか。では、また次回。

児童文学の旅(3)

―L．キャロル、イギリス・デアズベリー村からオックスフォードへ―

原　　昌

1978年８月９日朝、私はロンドンを発って列車でチェシャー州ウオリントンにつき、日に数本しかないバスでデアズベリー村に入った。ここはルイス・キャロルの生誕地である。バスを降りると、牧草地が開け、近くに教区教会があった。幸いなことに、キャロルの父が牧師として勤めたところであった。たまたま日曜ミサが終わったところで、教会に入っていくと、天井のステンドグラスには、『不思議の国のアリス』に登場する、ハートの女王やチェシャ猫らのキャラクターたちが勢揃いしていた。

私が参列者の一人に、キャロルの生誕地はどこかと聞くと、牧草地のむこうに記念碑が建っているという。小径を辿っていくと、巨木があり、その陰に石碑があった。碑には「チャールス・ラトウィッジ（キャロルの本名）生誕の牧師館、ここに建つ」と記され、かれの詩の一節「コーン（穀物）の海のなか、孤立した農場、朝風のそよぎにゆれる、われが生まれし幸せなところ」と刻まれていた。かれにとって幼少時が至福のときであったことが忍ばれる。

キャロルは、私の生涯に決定的な影響を与えた作家である。ほんのちょっとした出会いが、人の生涯を決することがあるが、私にとって、それがキャロルであった。30数年前、高校教師をしてから、大学の助手となったが、英文学に関心をもっていた私は、ロンドン版の『英文学史』には Lewis Carroll の項に頁が割かれているのに、日本の『英文学史』ではほとんど触れられていない、そうした疑問がキャロルを調べるきっかけになっていった。そのうちにキャロルがオックスフォード大学のクライスト・チャーチ・カレッジの聖職者・数学講師であり、詩人であり、児童文学作家であることを知った。このことが未開拓の分野＜英米児童文学研究＞へと、私を導いたのである。

そして30年経ったいま、キャロルの足跡を辿ってみようと、ふと旅立ったわけである。

生誕の地デアズベリー村を去って、オックスフォードへと向かった。かれは生涯独身でクライスト・チャーチの学寮で生涯を過ごしている。その学寮を訪ねた後、やや南へ下り、大学構内の草原を経て、川辺に出た。テムズの支流アイシスであった。そこには船着き場があって、数隻のボートが置かれていた。上流にアーチ式の橋が見え、橋桁のところに白鳥がいて、そのまわりをカモやアヒルたちが群がっていた。流れは緩やか、水は澄み、陽光のそそぐ清らかな午後であった。

キャロルの「日記」によると、1862年７月４日、かれは、アリスの三姉妹と友人のダックワースとともに、この川をボートで上りゴッドストウに着くまでに、アリスを主人公にした物語を語ったという。これが『不思議の国のアリス』の原話となった。

その後、私は小学校時を過ごしたという寒村クラフトと、夏の休暇を過ごした海岸の町イーストボーンを訪ねてから、終焉の地ギルフォードへと急いだ。ロンドンの南西にある城下町である。

かれは城下の妹の家で逝去、小高い丘にあるセメトリーに葬られた。100以上もの墓石のある広い墓地だが、ちっぽけなチャペルがあって、その近くにひときわ目立った、白っぽい十字架状の墓石があった。それが、キャロルの墓であった。石は磨かれていて、色とりどりの花が添えられている。たしかに誰かがときおり訪れるのであろう、私はふと＜キャロルは生きている＞という思いを募らせた。

十字をきることを知らない私だったが、墓地の静寂のなかで、思わず手を合わせた。（中京大学名誉教授）

新着図書セレクト

＊12 ～2月の新着図書の中から、お薦めの本をご紹介いたします ＊

『読む力・聴く力』（河合隼雄，立花隆，谷川俊太郎著・岩波書店）

請求記号：019/Ka 93，所蔵：LSC・TL

読むこと・聴くことは、現代の人間の生き方にどのように関っているのか。

臨床心理、ノンフィクション、詩において、読む聴くを深く実践してきた三者が、その意味を問い直す。

『不都合な真実』（アル・ゴア著；枝廣淳子訳・ランダムハウス講談社）

請求記号：451.85/G 67，所蔵：LSC

アル・ゴアが30年以上の年月をかけて取り組んできた環境問題に関する研究成果のすべてを収録。地球温暖化の恐ろしさを物語る多数の資料、写真、またゴアのパーソナルライフに関するエピソードやプライベート写真などを一挙掲載！

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
007.6/I 72	**『コンピュータの名著・古典100冊：若きエンジニア「必読」のブックガイド』** （石田晴久編・著；青山幹雄［ほか］共著・インプレスジャパン） コンピュータの本質を理解するための基本図書100冊を分野別に徹底紹介。	TL
019.9/Y 82	**『打ちのめされるようなすごい本』**（米原万里著・文藝春秋） 米原万里全書評1995－2005。読書好き必読の一冊。	LSC TL
070.4/I 33	**『池上彰の新聞勉強術』**（池上彰著・ダイヤモンド社）	TL
104/I 32	**『知ることより考えること』**（池田晶子著・新潮社） インターネットなんかいらない。もし本当を知りたいなら、考えることだ。	LSC TL
140/Sh 54	**『「こころ」の解体新書：心理学概論への招待』** （下野孝一著・ナカニシヤ出版）	TL
154/Ka 43	**『愛国の作法』**（姜尚中著・朝日新聞社）	TL
221.06/Ka 54	**『黒い傘の下で：日本植民地に生きた韓国人の声』** （ヒルディ・カン著；桑畑優香訳・ブルース・インターアクションズ）	TL
289.1/Ma 77	**『コトの本質』**（松井孝典著・講談社）	LSC
289.3/P 55	**『ダーウィンのミミズ、フロイトの悪夢』** （アダム・フィリップス著；渡辺政隆訳・みすず書房）	TL
326.3/B 17	**『犯罪被害者等基本計画の解説』** （番敦子、武内大徳、佐藤文彦著・ぎょうせい）	LL
361.454/Y 48	**『五つ星のお付き合い』**（山﨑拓巳著・サンクチュアリ・パブリッシング） 大人になると、お付き合いのしかたは、誰も教えてくれない。	LSC

請求記号	タイトル・著者・出版社	所蔵
361.47/Ta 82	**『データの罠：世論はこうしてつくられる』**（田村秀著・集英社） 巧妙に仕掛けられたトリックを見破るために正しい情報の読み方を提案。	LSC TL
367.1/Ka 86	**『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』**（加藤秀一著・朝日新聞社）	LSC
377.9/Sh 29	**『就職活動でへこんだら読む本』**（重田剛志著・日本実業出版社） サラリと読めて腑に落ちる就活の羅針盤！	TL
388.1/Ta 46	**『世界一なぞめいた日本の伝説・奇譚』**（鳥遊まき著・こう書房）	TL
481.78/B 59	**『本能はどこまで本能か：ヒトと動物の行動の起源』** （マーク・S・ブランバーグ著；塩原通緒訳・早川書房） 遺伝子か、環境か。神経学者が解き明かす行動と認識の起源	LSC
491.371/I 33	**『脳はなにかと言い訳する：人は幸せになるようにできていた！？』** （池谷裕二著・祥伝社）	LSC
498.3/Ke 45	**『健康常識テスト：知る、知らないで寿命が10年違う！』** （阿部博幸監修・主婦の友社）	TL
509.21/Ts 32	**『日本ものづくり優良企業の実力：新しいコーポレート・ガバナンスの論理』** （土屋勉男著・東洋経済新報社）	LSC
519/L 94	**『ガイアの復讐』**（ジェームズ・ラブロック著；竹村健一訳・中央公論新社） 人類によって壊されゆく地球再生への処方箋を「地球の臨床医」が語る。	LSC TL
589.2/Sa 75	**『モダンふろしき案内』**（佐々木ルリ子、菅原すみこ著・河出書房新社）	LSC
610.4/W 45	**『百年の食：食べる、働く、命をつなぐ』**（渡部忠世著・小学館）	TL
675/Ta 82	**『バリュー消費：「欲ばりな消費集団」の行動原理』** （田村正紀著・日本経済新聞社）消費の新潮流と対応策を解明する。	LSC
712.1/U 66	**『歓喜する円空』**（梅原猛著・新潮社）	LSC
723.05/A 32	**『日本にある世界の名画入門：美術館がもっと楽しくなる』** （赤瀬川原平著・光文社）	TL
773/H 48	**『これならわかる、能の面白さ』**（林望著；森田拾史郎写真・淡交社） 能をこよなく愛するリンボウ先生の指南書。	LSC
801.03/Ma 64	**『ことば／権力／差別：言語権からみた情報弱者の解放』** （ましこひでのり編著・三元社）	LSC
810/W 12	**『大人の「国語力」が面白いほど身につく！』** （話題の達人倶楽部編・青春出版社）	LSC
811.2/F 62	**『知って得する漢字の歳時記』**（藤本明男著・清流出版）	TL
910.261/Ts 21	**『「近代日本文学」の誕生：百年前の文壇を読む』**（坪内祐三著・PHP 研究所） 今から百年前の日本文学の興隆を細緻に描く。	LSC
913.49/To 36	**『絵で楽しむ日本むかし話：お伽草子と絵本の世界』** （徳川美術館編集・徳川美術館）	NL
914.6/E 59	**『考えすぎ人間へ：ラクに行動できないあなたのために』** （遠藤周作著・青春出版社）	LSC
936/N 12	**『テヘランでロリータを読む』**（アーザル・ナフィーシー著；市川恵里訳・白水社） 監視社会の恐怖のなか、精神の自由を求めた衝撃の回想録。	LSC TL

※所蔵の【NL】は名古屋図書館、【LSC】はライブラリー・サービス・センター
【LL】は法学文献センター、【TL】は豊田図書館です。

小さな図書室の発見

文学部　言語表現学科２年　髙木　　慧

前回タイトルも作者も思い出せない本を求めて母校の中学を訪れた。先生に案内され、懐かしい図書室に足を踏み入れたとき、学校の門をくぐってから、ずっと漠然と感じていた懐かしさが一挙にこみ上げてきた。本棚やいす、カウンターの位置は昔のままだった。案内をしてくれた先生は、自分の卒業後この学校に来られた、とても親切な女性だった。卒業してから五年。400冊以上の本が処分され、配置も変わり、例の本を見つけるのはなかなか困難そうだったが、さっそく探しにかかった。本探しを手伝っていただきながら、先生は今の図書室の様々な話を聞かせてくれた。

生徒からのリクエスト本は必ず購入するようにしていること、生徒のための返却用のボックスを作ったことなど、行ってきた様々な取り組みを熱く語ってくれた。月ごとの利用者数、貸し出し図書数が増えるなど、昔の図書室の状況と比べ、改善された点は多いようだ。図書室の片隅に、見慣れない黒板が置いてあるのに気づいた。その黒板には、学校の教師一人ひとりの言葉が一言ずつ書かれたしおりが、全職員分張られてあった。本を借りた生徒はそれを一枚もらうことができるらしい。月ごとに違うしおりを作るのだが、人気のある先生のしおりはいつも品切れになるという。「完売」と書かれたしおりの数々を見たとき、今の図書室と学校が、どれだけ生徒にとって身近な場所となっているのかを実感させられた気がした。いかに図書室を理解してもらうか、いかにより利用しやすい図書室にするか。こんな小さな中学の、小さな図書室がこれだけ真剣に、利用者である生徒たちと等身大で向き合って、お互いの理解と交流に取り組んでいるのかと驚いた。教師も生徒も荒れている学校はもちろんのこと、図書室という存在を相手にしないでいる学校がどれほどあるだろうか。大学や公共の図書館と比べれば蔵書量も広さもないが、それでもそんな小さな図書室をより良いものにしようと試行錯誤し、必死に取り組んでいる人たちがいること、それに応えようとする生徒がいることに感心した。

例の本を探し続けて二時間が経とうとしていたが、本は一向に見つからない。半ばあきらめかけていたそのとき、ふと、見覚えのある本が目に入った。昔この図書室で借りた本だった。シリーズで刊行されていた本で、続きの巻が一緒に並んでいたはずだが、近くに見当たらない。ページをめくってみると、胸を躍らせた興奮、読み終えたときの満足感や切なさといった記憶が、溢れるように鮮明によみがえってきた。懐かしさと共にゾクゾクとする感動があった。ページをめくっているとき、突然頭に例の本のことが浮かんだ。昔、この本を借りたそのとき、例の本も一緒に借りたことを、ふいに思い出したのだ。

慌てて先生に、同じシリーズがある場所を調べてもらった。確か、例のあの本は、シリーズの本がまとめて並べてあった場所の近くにあったはずなのだ。やっと見えてきた手がかりに、自然と胸が躍り始めた。先生に場所を教えてもらい、さっそく棚を覗き込んだ。浮き足立つ気持ちを抑えつつ、棚の中の一冊一冊を注意深く確認していく。一段一段、並ぶ本の背表紙を眺めていくが、それらしいタイトルの本は見当たらない。全ての段を見終わり、隣の本棚へ。そこでもやはり見つけられず、仕方なく反対側に隣接する本棚に目をやった。湧き上がった期待が一気に沈み始めていた、そのときだった。最初に見た棚の、ちょうど真ん中の段。一列に並ぶ本たちの裏側に、隠れるようにして崩れ落ちている本が何冊もあることに気づいたのだった・・・・・・。

ベストリーダー（2006年２月～2007年１月）

図書館で多く貸し出された資料を紹介します。

【名古屋図書館】 閉架書庫は迷路のようで、本好きにとっては、刺激的かつ魅力的な場所です。書庫利用願いの提出で、入庫できます。文学系や心理系の資料の利用が多いようです。

書名	著者名	請求記号
紫式部集全評釈	南波浩著	911.138/N47
紫式部集評釈	竹内美千代著	915.35/Ta67
学習心理学	梅岡義貴・大山正編著	141.33/U73
学習	メドニック著	141.33/Me14
栄１（中国書論大系：第４巻）	中田勇次郎編著	728.22/C62/4
中国の国有企業改革と労働・医療保障	塚本隆敏著	332.22/Ts54

【豊田図書館】 明るく使いやすい近代的な図書館です。開架、閉架書庫の両方を兼ね備えています。

書名	著者名	請求記号
容疑者Ｘの献身	東野圭吾著	913.6/H55
東京タワー：オカンとボクと、時々、オトン	リリー・フランキー著	913.6/R47
手紙	東野圭吾著	913.6/H55
陰日向に咲く	劇団ひとり著	913.6/G32
白夜行	東野圭吾著	913.6/H55
国家の品格	藤原正彦著	304/F68

【LSC】 英語教材、基礎的な学習図書、小説が充実しています。新着雑誌や新書も豊富です。今回は山田悠介の本が人気でした。

書名	著者名	請求記号
Two Lives	Helen Naylor	837.7/C14/T
Just good friends	Penny Hancock	837.7/C14/J
Love story 2nd ed.	Erich Segal	837.7/O93/L
※上記３タイトルの他にも『Oxford Bookworms library』『Cambridge English readers』等の英語教材シリーズの利用が多数みられました。		
イン・ザ・プール	奥田英朗著	913.6/O54
夜のピクニック	恩田陸著	913.6/O65
×（バツ）ゲーム	山田悠介著	913.6/Y19
県庁の星	桂望実著	913.6/Ka88
レンタル・チルドレン	山田悠介著	913.6/Y19

【法学文献センター】 法学部棟に設置された、政治・法律専門の図書館です。

書名	著者名	請求記号
刑法各論	平川宗信著	326.2/H46
刑事訴訟法　第２版	長沼範良［ほか］著	327.6/N16
刑法講義各論　新版対補版	大谷實著	326.2/O94
裁判員制度	丸田隆著	327.67/Ma58
会社法　第８版	神田秀樹著	325.2/Ka51

図書館カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
1	②	③	④	⑤	⑥	⑦
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
16	17	⑱	⑲	⑳	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

通常開館時間

	平　日	土曜日
名古屋図書館	9：00～19：00	9：00～12：30
豊田図書館	9：00～20：00	9：00～17：00
ライブラリーサービスセンター	9：00～22：00	9：00～17：00
法学文献センター	9：00～19：00	9：00～12：30

無印は通常開館
■ は休館日
■ は名古屋図書館、ライブラリーサービスセンター、法学文献センター休館日
□ の開館時間（平日　9：00～16：00）
○ の開館時間（平日　9：00～17：00　土曜日　9：00～12：30）

発　行　中京大学図書館
〒466-8666
名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL（052）-835-7157
http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/
印刷　株式会社　荒川印刷